

## 2025 年度 A ジェネラルライセンス養成講習会 報告書

報告者：伊藤 仰津紀（静岡県立清水東高等学校）

### ■概要

1. コース 関東コース（第2コース）
2. 日程 前期：6月16日(月)～6月20日(金)  
中期：9月29日(月)～10月3日(金)  
後期：12月1日(月)～12月5日(金)
3. 会場 鹿島ハイツ
4. チューター 山橋貴史、小野信義、中村元彦

### ■講習会内容

1. 指導実践（★は監督役で指導実践をしたトピック）

#### ア) トピック

- ①高い位置からの守備
- ②ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して）★（前期）
- ③中盤でボールを奪う守備の改善★（クラブワーク）
- ④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善★（後期）
- ⑤リトリートした守備の改善★（中期）
- ⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善
- ⑦カウンターアタックの改善（自陣に引き込んでから）

#### イ) 内容

・前期：3回、中期：3回、クラブワーク：1回、後期：1回指導実践を行う

前期・中期は、監督・コーチ・GK コーチとして1回ずつ実践し、クラブワークと後期は監督として1回実践する。テーマは抽選で決定するが、クラブワークのみ自由

・前期は、Tr1+Tr2 で25分、中期は、Tr1+Tr2+Game で30分、後期は、Tr2+Game で20分

・各トピックでのプレーモデルを落とし込み、選手1人1人にタスクを与える。改善側のシステムは自由。非改善側のシステムは4-4-2（可変するのはOK）。

改善側を5-3-2や3-4-2-1にする人もいて、さまざまなプレーモデルが見られた。

#### ウ) Log Book（間の学習）

前期～中期：5回、中期～後期：4回（高校生年代以上の選手で）実践する。それぞれのうち2回はA or S級保持者にも見てもらい、コメントをもらう必要がある。間の学習を充実させることでトピックの理解につながると感じた。

#### エ) プレゼンテーション実習

中期1回目の指導実践テーマ（私は「リトリートした守備の改善」）について、自

分のプレーモデルを、映像付きスライドを用いて10分以内で説明・提示する。十人十色のプレゼンで非常に有意義だった。Jリーグで使用している高価な映像編集ソフトを用いて作成されている方もいたが、PCにプレインストールされているプレゼンテーションソフトを用いても十分説得力のある内容を作成することができると思う。長谷部誠氏は映像のみで選手（受講生）との対話をしながらプレーモデルの提示をしていたのが印象的だった。映像を用いない人のプレゼンは中々伝わる情報が少ないと感じた。

## 2. 講義

・チームビルディング（福富氏） ・Emotion Work Shop ・ナショナルコーチングスタッフ（U-17 日本代表監督 船越氏） ・マネジメント ・セットプレー ・フィジカルコンディショニング（GPS 装着） ・ゲーム分析 ・GP 講義 ・コーチング、プランニング

→U-17 W杯のマネジメント等を知ることができたのはとても有意義だった。

→エモーションの講義やマネジメントの講義では、南アフリカ W杯のことも話題に出てきたが、当時キャプテンとして長谷部氏が考えていたことなどを話してもらえたのは、本コース、今年度巡り合った大きな財産となった。

## 3. 試験

①口頭試験：短い映像を見て、トピックの現象（改善点）について答える

②筆記試験：記述形式（1回3問ずつ、6問）

### ■学びと課題

ア) 本コースまでの準備

B級6トピックを理解することはA級7トピック理解に大いに役立つ。なぜなら、エリアやキーファクターが重なるからである。また、指導実践の場数を踏むことも大切である。普段の指導現場とは異なり、短い時間の中で、普段指導していない選手に対して自分のプレーモデルを落とし込まなければならないのが難しかった。選手も人なので、まずは実践に対するモチベーションやコミュニケーションをとることが充実したセッション、スムーズな実践、落とし込みにつながると感じた。

イ) 本コースでの取り組み①

やはり指導実践が「全て」であると感じる。合否に直結するだけでなく、指導者としての腕の見せ所だからである。私が指導実践において重要だと感じたポイントは以下に示す通りである。

・7トピックのプレーモデル、ポジション（GK/SB/CB/SH/VO/FW）ごとのタスクを明確にしてにおいて、コーチングストーリーを組み立てる

→非改善への働きかけも重要。22人を見て動かしているかが合否のポイント。

・7トピックにおいて「4局面」を明確にもっておき、コーチングする（例：「カウンター攻撃であれば、カウンターした後の守備の切り替え時にどのような戦術行動を取るのかまで伝える）

・選手のプレー時間を確保する（説明が長いと選手が気持ち良くプレーできない）

・提示（フリーズ）は、短く、端的に、タイムリーに行う（追試になった方の多くは、説明が長く、タイムリーなフリーズではなかった or 具体的な提示が無かった）

・フリーズをした後、そのプレーが再び登場した時にジャッジする（褒める）

・自分のプレーモデルを押し付けすぎると選手の「納得感」が薄れ、活気のあるトレーニングではなくなる。目の前の選手のプレーを見ながら、失敗した時まさにタイムリーなフリーズをして、「やってほしいプレー」や「やってほしくないプレー」を提示する

ミーティングでやりたいプレーのみを提示し、目の前で起きている現象や問題に対して介入する方は少ないように感じた。しかし、本質的には目の前の問題を改善しないことにはプレーモデルの構築はあり得ないと考える。

ウ) 本コースでの取り組み②

指導者同士のつながりも今後の大きな財産である。指導案を見せ合ったり、同トピック実践者でディスカッションしたり、プレーモデルについて熱く議論したりする時間は、サッカー理解を深め、プレーモデルを研ぎ澄ませることができた。他の何にも代え難い貴重な時間だった。

## ■提言

サッカーの本質は変わらないが、トップトップの世界ではサッカーは変化し続けている。例えば、システムの可変である。選手が自らの判断でシステムを可変することが多くあった（例：ビルドアップ時に CB の間に V0 が 1 枚下りる）。指導実践の際には、自分の想定していないことが当然起こり得るものとして、そこからの対応力も求められていると感じた。

## 2025年度Aジェネラルライセンス養成講習会報告書

報告者：野村 周平 (FukuroiFC)

### ○期 間 4コース (東海コース)

前期：2025年5月12日(月)～5月16日(金)

中期：2025年9月8日(月)～9月12日(金)

後期：2025年12月8日(月)～12月12日(金)

### ○会 場

静岡県時之栖 (裾野グラウンド, 時之栖グラウンド)

### ○チューター

城和憲さん、石井知幸さん、望月聡さん

### ○内 容

(講義)

チームビルディング (福富信也さん)

エモーション

ナショナルコーチングスタッフ (U-17 日本代表監督廣山望さん)

チームマネジメント

セットプレー

フィジカルコンディショニング

ゲーム分析

GK 講義

コーチング・プランニング

(実技：指導実践) ※テーマは抽選で決定

- ①高い位置からの守備○
- ②ビルドアップの改善 (高い位置からの守備に対して) ○
- ③中盤でボールを奪う守備の改善○
- ④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善○
- ⑤リトリートした守備の改善
- ⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善
- ⑦カウンターアタックの改善 (自陣に引き込んでから)

前期：3回 (監督、コーチ、GK コーチ) Tr1+Tr2 (25分)

中期：3回 (監督、コーチ、GK コーチ) Tr1+Tr2+Game (30分)

クラブワーク (監督) Tr2+Game (20分)

後期：1回 (監督) Tr2+Game (20分)

※○は実践したトピック

(口頭試験)

映像を見て分析し、端的に回答する

(筆記試験)

問いに対して論述

(課題)

医学、栄養、心理、社会科学の講義を受講しレポートを提出

A ジェネラルライセンス以上の方に指導実践を2回見てもらいコメントとサインをいただく

全ての指導実践(7トピック)のプランニングと実践(Logbookへの記録)

## ○所 感

この度、A ジェネラルライセンス指導者養成講習会に参加するにあたり、指導実践を見ていただいた方々、クラブ関係者をはじめ、多くの方々のご理解とご支援をいただきました。この貴重な学びの機会を与えていただいたことに心より感謝申し上げます。

養成講習会を通して最も強く感じたことは、指導実践の重要性です。講習内での実践はもちろんのこと、講習と講習の間の期間における現場での指導実践こそが、自身の成長を大きく左右するものであると実感しました。学んだ理論や考え方を実際のトレーニングに落とし込み、選手の変化や反応を通して振り返ることで、理解が深まり、指導の質が高まることを改めて認識しました。

また、プレーモデルの明確化の重要性についても大きな学びがありました。目指すサッカー像を明確に持つことで、トレーニングの設計やコーチングに一貫性が生まれました。今後は、自身のプレーモデルをさらに具体化し、選手と共有しながら体現できるよう努めてまいります。さらに、さまざまな地域やカテゴリーで活動する指導者の方々との交流は、自身の視野を広げる貴重な機会となりました。それぞれの実践や価値観に触れることで、自身の指導観を見つめ直すとともに、多くの刺激を受けました。

指導に完成はなく、常に学び続け、ブラッシュアップしていく姿勢が求められると強く感じております。講習会で得た学びを一過性のものとせず、日々の現場で実践と検証を重ねながら、選手の成長に還元できる指導者を目指して精進したいと感じました。

報告者：奥澤健矢（ジュビロ磐田 U-15）

■目的（事業：2025 年度日本サッカー協会公認 A ジェネラルライセンス養成講習会 JFA コース）

「監督」としてアマチュアトップレベルのチーム及び選手に質の高い指導ができる人材を養成すると同時に、地域・都道府県の指導者のリーダーとなる人材を養成する。

■流れおよび全体像

前期：2025 年 5 月 12 日（月）～5 月 16 日（金）

後期：2025 年 9 月 8 日（月）～9 月 12 日（金）

試験期：2025 年 12 月 8 日（月）～12 月 12 日（金）

＜講義＞

指導実践ガイダンス・プレーモデル・GK（大橋昭好）・ゲーム分析・プランニング&コーチング  
フィジカルコンディション（講義と実技）・試合時の統率・セットプレー  
エモーション・チームリーダー論・チームビルディング・ナショナルコーチング講義（廣山望）

＜実技＞

【前期】TR1+TR2（25 分）監督・コーチ・GP コーチの 3 役に分かれて指導実践

【中期】TR1+TR2+GAME（30 分）監督・コーチ・GP コーチの 3 役に分かれて指導実践

【後期】TR2+GAME（20 分）監督役のみの指導実践

＜試験＞

【指導実践】・前期、中期、後期、+クラブワーク

【口頭試験】映像を見てテーマに沿った改善点・問題点について答える。

【筆記試験】記述形式 2 回行う。（計 4 問）

【映像 MTG 試験】自分のテーマに沿った、映像 MTG を約 10 分で行う。

＜課題（レポート）＞

【事前課題】

- ・プレーモデル作成
- ・7つのトピックの指導案作成
- ・自己分析シート

【前期と中期間】

- ・プレーモデルのブラッシュアップ
- ・指導実践（ログブックの作成）
- ・映像 MTG 用の資料作り

【中期と後期間】

- ・指導実践（ログブックの作成）
- ・「マスター・オブ・エモーション」

講義・実技・課題・試験が有機的に結びついており、「学ぶ→実践する→振り返る→再構築する」というサイクルが全体を通して徹底されていた。

■課題の発見と分析

本講習会を通して明確になった自身の課題は、主に以下の 3 点である。

① 現象の抽出と本質的課題の整理

ゲームの中で起きている現象を整理することはできても、それを構造的に分析し、優先順位をつけて改善策に落とし込む精度に課題があった。

## ② コーチングの簡潔性と明確性

意図は明確であっても、言語化が冗長になり、選手への伝達が整理されきれていない場面があった。

## ③ エモーションマネジメント

試合やトレーニングの流れの中で、選手の感情とチームの空気を読み、適切に働きかける力にさらなる向上の余地があると感じた。

### ■トピックス

- ①高い位置からの守備
- ②ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して）
- ③中盤でボールを奪う守備の改善
- ④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善
- ⑤リトリートした守備の改善
- ⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善
- ⑦カウンターアタックの改善（自陣に引き込んでから）

具体的なプレーモデルが 4 局面、3 ゾーン毎に明確に言語化し、それをいかに 7 つのトピック毎に落とし込めるかが重要であった。また、自分のサッカー感を強く持った人や明確なプレーモデルを持って監督として自信を持って決断していくことが必要だった。

### ■テーマ理解

現象を改善するのではなく、

- ・自チームのプレーモデルのどの部分に関わるのか
- ・ゲームのどの局面にどのような影響を与えるのか
- ・最終的にどのような勝ち方を目指すのか

上記のトピックを 3 つのゾーン 4 局面で自分たちのチームのプレーモデルを TR から GAME へどのように落とし込むために TR メニューのオーガナイズやコーチング、ティーチングなどを工夫していくことが必要であった。

### ■所感

本講習会を通して、指導者としての基準を大きく引き上げてもらったと感じています。前期・中期・後期と段階的に構成されたカリキュラムの中で、自身のプレーモデルを軸に、トピック毎の指導実践と振り返りを重ねることで、「なんとなく分かっている」状態から「言語化し、再現できる」状態へと変化することができました。前期では、プレーモデルの整理とプランニングの重要性を強く実感しました。自分のチームが目指す姿を 4 局面・3 ゾーンで明確にすることで、トレーニングの意図がより明確になりました。中期では、フィジカルコンディションや試合時の統率、セットプレーなど、より実践的な内容を学びました。特に、試合時のマネジメントにおいては、戦術的な修正だけでなく、選手の感情や流れを読む力の重要性を感じました。TR+GAME 形式の実践では、トレーニングで扱った現象がゲームにどう表れるのかを常に意識する必要があり、指導の一貫性を改めて考えさせられました。後期では、「エモーション」やチームビルディングなど、戦術・技術だけでなく指導者の役割について深く学びました。特に感情のコントロールやリーダーシップについては、自身の課題と向き合う機会となりました。選手のパフォーマンスを最大化するためには、戦術理解だけでなく、心理面や関係性の構築が不可欠であることを再認識しました。7 つのトピックを通して感じたことは、「守備の改善」と「それに対する攻撃の改善」は常に表裏一体であるということです。高い位置からの守備、リトリート、カウンターアタックなど、局面ごとの原理原則を整理しながらも、最終的にはゲーム全体の中でどう機能させるかが重要であると学びました。また、クラブワークやログブック作成では、A ライセンス以上保有者からのフィードバックを受けることで、自分では気づけない視点や甘さに向き合うことができました。映像 MTG 試験では、現象を的確に抽出し、改善策を簡潔に伝える難しさを感じると同時に、言語化能力の向上を実感しました。本講習会で得た最大の成果は、「自分の指導を客観視する習慣」が身についたことです。トレーニングの目的、オーガナ

イズ、コーチングの質、選手の反応を常に振り返ることで、指導の精度を高め続ける姿勢が重要であると感じました。今後は、本講習会で学んだ原理原則と自身のプレーモデルをさらにブラッシュアップし、選手たちの成長に還元していきたいと考えています。そして、戦術・技術・フィジカル・メンタルを総合的に高められる指導者へと成長していきます。

#### ■提言

今回の講習会で自分自身がサッカーをまだまだ知らないことまだまだ足りないことを実感した。様々な指導者の指導を観て話すことでサッカーが整理されたことと考えさせられたことがいくつもあった。普段の指導に戻った時やサッカーの試合の見方や感じた方に変化があり、自分の指導の準備や言動が一段と整理されたと思う。

本講習会で得た学びを今後の指導現場で活かすために、以下の点を継続していく。

1. プレーモデルの継続的なブラッシュアップ
2. 指導実践後の徹底した振り返りと指導の蓄積
3. 映像を用いた分析と言語化能力の向上
4. エモーションとリーダーシップの自己研鑽

## A ライセンス養成講習会 レポート

報告者：渡井 将浩（富士宮市立富士根南中学校）

○期間 第3コース（東北・北陸コース）

前期：2025年4月21日（月）～4月25日（金）

後期：2025年9月15日（月）～9月19日（金）

試験期：2021年12月8日（月）～12月12日（金）

○会場 前期、後期・・・福島県・J ヴィレッジ

中期・・・福井県・三国運動公園 三国オーシャンリゾート&ホテル

○JFA チューター

三浦 佑介 西川 周吾 朝岡 隆蔵

○内容

<講義>

前期・「プレーモデル」「GK」「ゲーム分析」「プランニング&コーチング」、グループワークほか

中期・「フィジカルコンディション」「試合時の統率」「セットプレー」

後期・「チームビルディング」「ナショナルコーチングスタッフ講義」「エモーション」

<試験>

（指導実践）

7種類のトピックから1つくじで引いて行う。

前期・「リトリートの守備に対する攻撃」

中期・「前線の守備」

クラブワーク（11月11日、城西大学）・「カウンターの改善」

後期・「カウンターの改善」

（口頭試験）

・40秒程度の映像を2回見て、そのチームねらい、課題と改善点についてあげる。

（筆記試験）

・自チームのGPに求めるものを4局面について書く

・今回の指導実践の課題と成果について

・5分程度の動画（U-18日本対イングランド）を見て、どこに課題があり、どんなトレーニングをするか。（TR1TR2）

キーファクターと指導のストーリーを書く

<課題（レポート）>

・「医学 サッカーにおける外傷・障害」・「医学 スポーツにおける頭部外傷、脳震盪」

・「医学 スポーツにおける熱中症の予防と応急処置」・「栄養」・「社会科学」・「心理」

○学びと課題

・プレーモデルについて

A級では、プレーモデルの落とし込みについて、言及される。サッカーの本質に否定されないプレーモデルを作る必要がある。書き方や考え方は、基本的に自由だが、自分は、4局面を3つのエリアに分けて考え、さらに

セットプレーについても作成した。そのため、12の場面と1つのセットプレーについて作成した。しかし、受講をして、中期が終わった後に、7つのトピックについても追記した。それにより、戦術行動についてより具体的に考えることができた。戦術行動について大切なことは、1つ目は、戦術行動が始まる、キーとなる事象はなんであるか。その条件（トリガー）。2つ目は、第1案の戦術行動がダメだった場合の第2案、第3案まで考えておくこと。3つ目は、相手の変化、対応を上回る戦術行動を用意しておくこと、である。

#### ・指導実践について

B級での学び、トライアルでの学びなどを通して、大切だと言われたことについて、やはりA級でも大切にされていた。プレーの時間を確保すること、フリーズ、シンクロ、ミーティングの長所短所を理解した上で、バランス良く実施すること、コーチの立ち位置について、サッカーの原理原則の理解、などについて言及があった。

また、戦術行動をより具体化して伝えること、11人全員にタスクを求め、それを見取ること、被改善にも働きかけ、トレーニングの難易度を高め、さらにそれを改善側が上回るようにすること、などについては、新たに提示があった。

#### ・Log Book（間の学習）について

前期後に5回、中期後に4回、高校生以上の指導実践を7つのトピックで行う。そのうち2回ずつ、計4回は、A級以上の方に見てもらい、コメントをもらう必要がある。この時間が非常に有効であり、様々なサッカー観の方に見てもらいアドバイスをもらうことで、自分のプレーモデルが磨かれていった。多い方だと、合計で20回程度指導実践を積み重ねる方もいて、やはり、どんどん指導力が向上している様子があった。自身も、増田裕氏や二橋慶太氏に指導を仰ぎ、富士東高校や沼津中央高校、富士宮北高校で指導実践を繰り返しさせていただいた。その結果、見るための立ち位置や、見るもののタイミング、戦術行動の再考など、多くの点で学びがあった。

#### ・他の受講生とのつながり

これまでのライセンスの受講に比べ、自由な時間が取れることが多かったので、他県の指導者と、サッカーについて語り、考える時間をとることができた。中には、Jリーグだけでなく、海外でのプレー経験や、Jクラブでの指導経験など、多種多様な指導者の方と話しをすることができた。中でも7つのトピックについての話や、プレーモデルの話は、大変有意義で、作戦ボード片手に、熱く話しをする機会は、自身のプレーモデルを磨くことができた。

#### ○提言

##### ・A級受講生の県内の学びの場について

県内から毎年複数名、受講生が出ているので、Log Book（間の学習）でコースが異なっても、日程を合わせて集まり、指導実践をし、A級以上の方に見てもらい、ディスカッションする機会を設けてはどうかと考えた。受講生のプレーモデルがより良くなることが期待できる。また、B級やC級の方も参加もしてもらうことで、次へのステップを見据える良い機会になると考えている。

#### ○最後に

##### ・協力への感謝

A級取得にあたって、トライアルから、講習会、間の学習において、様々な方々にバックアップをしていただいた。特に、増田裕氏や二橋慶太氏、富士東高校の選手、沼津中央の選手、富士宮北高校の選手には、多くの時間を割いていただき、本当に感謝している。今後は、県内外サッカーの活動を通し、還元していきたいと考えている。

## B ライセンス指導者養成講習会 レポート

報告者：青島 宗之(藤枝静清 FC)

### 【コース概要】

JFA 関東コース 会場：鹿嶋ハイツスポーツプラザ

前期：5月26日(月)～5月30日(金)

中期：9月8日(月)～12日(金)

後期：11月10日(月)～12日(水)

チューター(敬称略)：土橋 正樹、手倉森 広吏、前田 信弘(GP)、栗原 英毅(秋田県 FA)

受講生：22名

### 【内容】

#### ① 6つのトピック(指導実践はこの中から1つ)

- ・ビルドアップ ・中盤の守備 ・中央突破 ・ゴール前の守備
- ・サイド攻撃 ・クロスの守備

#### ② 講義内容

- ・サッカーの基本戦術 ・プレー分析 ・GP ・フィジカル
- ・プランニング ・言語技術 ・コーチング ・技術、戦術的トレンド(TSG)
- ・審判 ・チームマネジメント ・セットプレー ・スポーツ倫理

#### ③ 指導実践について

6つのトピックの中からどれかをグループ・個人で実践する。(前期初日くじ引きで決定)

中期までは4トピック実践するが同じトピックにはならない。後期(試験)では再度くじ引きをするので重複の可能性あり。毎回、W-UP～GAMEまでプランニングして提出。

##### ・前期

4人1組でプランニングして実施。W-UPかTR1、TR2かGAMEの2回実践。グループで40分(1人10分)。

##### ・中期(ここから試験の点数に反映される)

1回目は2人組(TR1かTR2)、2回目はTR2とGAMEを1人で実践。1回目は2人で20分、2回目は1人15分。

##### ・後期(試験)

1人で1回実践。TR2とGAMEで15分

#### ④ 事前課題と間の学習

##### ・事前課題

自己分析シート

6つのトピックのメニュー(W-upからGAMEまで)

ゲーム分析(自チーム2試合)

・間の学習(前期終了から後期の初日まで)

eラーニングでスポーツ医学、スポーツ社会学、スポーツ心理学、トレーニング科学を学習。テストとレポート提出がある。9月15日までに終わらせなければいけなかったで、夏休み前までに終わらせると気持ちが良いと思います。

ゲーム分析(自チーム2試合)

実践とメニューの提出(6つのトピック)。6つのうち2トピックはA級以上の方にトレーニングを観てもらい、コメントとサインを書いてもらう。

## ⑤ 試験

・指導実践(中期2回、後期1回)

・口頭試験(映像を見てどのトピックか。またそのプレーの改善点を答える)

・筆記試験(記述式)

### 【所感】

・『プレーモデルの落とし込みではなく、グループ・個人にフォーカスする。』

最初の実践でチューターから指摘を受けました。日頃、プレーモデルの落とし込みを考えながら指導することが多いので、個人的にはそのアプローチが難しかったです。W-up から GAME までのフィジカルの負荷も特に考慮しなくて問題ないと思います。

・『フリーズをした際に選手の意図を汲み取りながら指導する。』

こちらのプレーモデルの押し付けにしない。発問コーチングしながら導いていくこと。そのトピックに対するキーファクターの量が大切です。その場で起きた現象に対して自分の引き出しの中のどれを正確にチョイスするのが問われます。

・『正しくトピック理解をすること。』

状況、エリア、配球。チューターからの指摘に集中して、何が求められているのかを整理する必要がある。昨年度までに県協会のHPにアップされている情報を整理しておけば準備としては問題ないと思います。みんな最終的に指導実践用の同じようなオーガナイズになっていきます。

・『トピックはあくまでもサッカーの一部であること。』

トピックばかりを追いかけて他のところが見えていない(見ようとしない)のはNG。トピックの前、その前はどうなっているのかそこまできちんと分析する必要があると思います。

### 【最後に】

Jリーグのトップチームコーチから街クラブの指導者、教員など様々な指導者との交流ができました。バルセロナで共に学んだ仲間たちとの再会も嬉しかったです。みんなまで夜遅くまでサッカー談義をする時間は私にとって非日常で幸せな時間でした。

今年度推薦して下さった静岡県サッカー協会の皆様に感謝申し上げます。これからも静岡県のサッカー発展に尽力していきます。